



プロフィール 犬種:雑種
年齢:7歳
性別:避妊雌

キーワード ノミアレルギー、急性湿性皮膚炎 (ホットスポット)

報告 Dermatology & Allergy Veterinary Practice
Dr. Sebastian Schleifer, DVM, DipECVD (ドイツ)

診断 ノミアレルギーの関与が疑われる急性湿性皮膚炎

既往歴 過去4年にわたり後躯に痒痒があり、時折ノミがみられるため不定期にノミ駆除剤を使用するも痒痒は改善しなかった。

症状 腰部に5cm×4cmの病変(脱毛・紅斑・浸出液・痂皮)を形成。病変部の細胞学検査の結果変性好中球が多く観察され、時に球菌の貪食像が認められた。血球、血液生化学、血清T4/TSH、抗ヒゼンダニ抗体に異常値は認められなかった。

治療 コルタバンス®(シャンプー後の乾いた皮膚に、1日1回、7日間)

シャンプー 病変部のみ抗アレルギー・抗菌シャンプー(1日1回)

経過 2日目から急性炎症が改善され、当初嫌がっていたシャンプーを受け入れるようになった。2週間後の再診時には、炎症は顕著に改善していた。

製品



コルタバンス®

有効成分:

ヒドロコルチゾンアセボン酸エステル(HCA)

効能又は効果:

犬のアレルギー性皮膚炎による症状の緩和



治療前



治療15日後

まとめ コルタバンス®は急性炎症及び浸出液の低減に貢献した。患犬がシャンプーを受け入れるようになったのは、コルタバンス®投与による炎症軽減の結果、疼痛が緩和されたためと考えられた。

〈ビルバック社内資料より〉